

アウトドアスポーツにおける人材育成と知見の蓄積に向けたループリックの活用

1240400 植村仁

指導教員 前田和範

研究背景

近年、スポーツ庁は「自然資源を活用したスポーツによる地域活性化」に取り組んでおり、高知県でもアウトドア拠点など核となる観光地作り、市町村と連携した観光地づくりが進められてきた。しかし、アウトドアスポーツ事業者には人材不足・人材育成という課題が存在する。筆者自身のアルバイト先である仁淀川アウトドアセンター（以下「NOC」と略す）でも同様の課題があり、特に人材育成が課題となっている。

研究目的

先行研究の結果を踏まえ、本研究はNOCをモデルとし、既存の学生アルバイトを育成するためのループリック作成・活用を通じて、その効果の検証と知見の蓄積をすることを目的とする。そして、本研究によりNOCが展開する人材育成の様相を明らかにすることによって、「学生とアウトドアスポーツの良き結びつき」のモデルケースとなることを目指す。

調査・分析方法

2023年7月、8月、9月に月一回、計三回実施したループリックを活用した自己評価を学生アルバイトに実施した。そして3回全てに回答した学生7人を対象にその結果をまとめ、社長からの他己評価、追随したアンケート調査を行った。

分析結果

ループリックを活用することで成長度合いを可視化することができた。次に、社長からの他己評価との比較が容易になり、全体的な傾向が見え、問題点・改善点を可視化することができた結果となった。例えば、ループリックを5段階評価にしたことで、より正確に成長の過程を見ることができ、「コミュニケーション」と「主体的行動」が学生アルバイトの課題であることが分かった。加えて自己評価と他己評価のそれぞれの平均をグラフ化して比べた際の差が明確に出たため、事後アンケートを作成した。その結果、社長と学生アルバイトの間ではループリックの内容について細かい認識の差があり、それらを改善しながら育成システムを確立していく必要があることが確認できた。

考察・結論

アウトドアスポーツ事業者で学生が働き、成長する仕組みづくりをしていくことが、アウトドアスポーツ事業者が抱える人材不足・人材育成の課題を解決していくとともに、学生に対してもさまざまなメリットをもたらすことが分かった。また人材育成はループリックを用いることでより効果的な人材育成を可能にし、さらなる改善ができることを示唆する結果となった。